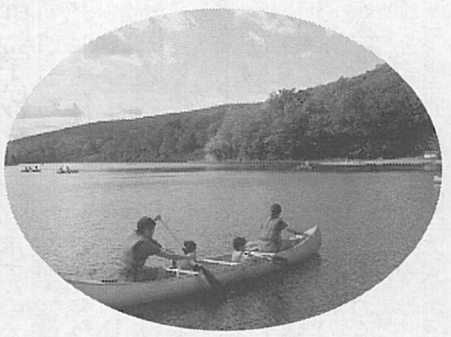
1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第666号（通巻1170号）　定価１部40円

創立1880年
YMCA
東京YMCA
2009 5 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



東京―フロストバレーYMCAパートナーシップ

手つなぎ30年・在米日本人家族を支援

次なるステージへ向け パートナーシップ活動を強化したい

ディレクター　松本　数実

東京―フロストバレーＹＭＣＡパートナーシップは２００９年で30周年を迎えました。これまでに、多くの方々にお支えいただき活動が継続できましたことに、心より感謝致します。

１９７９年、本間立夫氏（本会元主事）が初代ディレクターとしてニューヨークに赴任し、現地の日本人の方々のための活動を開始しました。当時、ニューヨークは治安が悪く、ＹＭＣＡの周辺も危険な地域であったため、日本人の間でもＹＭＣＡの評判は最悪だったと聞いています。本間氏は、質の高いプログラムを提供してＹＭＣＡの汚名を返上するとともに、ニューヨーク各地で出前のプログラムを展開した結果、多くのプログラム参加者・会員が組織されることとなり、パートナーシップは短期間のうちに大きく成長していきました。

開設当初、ニューヨークに住む日本人の子どもたちの体力低下の問題から、夏のスポーツキャンプを開始し、その他、様々なサマーキャンプがフロストバレーＹＭＣＡで継続されました。現在は、毎年約３００人の子どもたちが参加しています。ニューヨークに住む日本人家族にとって、子どもたちの教育や海外生活への適応は、昔も今も大きな課題の一つです。現地校での勉強や英語習得に加えて、日本語補習校・塾など、多くの子どもたちが日本語と英語の世界に生きています。異文化の中で生活する者同士がキャンプを通して、強い絆を築き、励まし合い、強め合うことができるのがフロストバレーです。

アメリカに来たばかりの子ども、長期滞在者、日米両方の国籍を持つ子どもまでバックグラウンドは様々です。生活はアメリカに適応しても、子どもたちにとって、日本人としてのアイデンティティーを築きながらアメリカ社会で自分らしく生きていくことは、容易なことではありません。フロストバレーは、日本人として、国際人としての自分を築く場であり、彼らにとっての日本＝故郷でもあるかと思います。

フロストバレーＹＭＣＡは、６０００エーカーの広大な敷地と年間3万5000人が利用する大規模な宿泊施設を備え、人種・民族・宗教・障がいを問わず誰でも受け入れる、ＹＭＣＡスピリットが土に染み込んでいる素晴らしいＹＭＣＡです。30年にわたり、東京ＹＭＣＡのスタッフを自らのスタッフとして受け入れ続け、良きパートナーシップが継続できたことを心より感謝致します。

日米のＹＭＣＡが手をつないでパートナーシップを開始してから30年を経て、２国間の素晴らしい民間国際交流事業に発展しました。30周年を迎えた今、ここで育った子どもたちが主役になってパートナーシップを支え、今後は日米の架け橋となり、世界の平和のために大きく活躍してくれる時代がやってくると確信しています。次なるステージに向かうパートナーシップの活動をさらに強化していくために、末永くご支援をよろしくお願い致します。

キャンパー・ジュニアリーダー・カウンセラー・プログラムスタッフ・プログラムデイレクター（１９８３年～１９９３年）
高橋陽介

パートナーシップ30周年おめでとうございます。

フロストバレーのリーダーシップトレーニングは、学校のクラスで学んだ何よりも人生に役にたっております。私にとってフロストバレーは、心の故郷（ふるさと）です。

◇『悲しみに出会うたび、あの人を思い出す。こんな時そばにいて、肩を抱いて欲しいと。なぐさめも涙もいらないさ、ぬくもりが欲しいだけ。人はみな一人では、生きて行けないものだから』（「ふれあい」より）

◇ある教会の牧師が礼拝堂の掃除をしながら、この歌をつぶやいていたら、そこに来た教会員が「先生、良い讃美歌ですね」と言ったそうです。メロディのやさしさと歌詞の温かさから讃美歌と思ったのでしょう。たしかに「あの人」の箇所を「神様」にしても通用します。世の中

すべての人を一つにしてください
みな一人では生きられない

そうな気がします。

◇お金がお金を生み出す現代を「マネー資本主義」として、テレビで特集が組まれています。経済評論家の内橋克人氏は「マネー資本主義がブルドーザーのように踏み潰しているものが、実はほかならぬ人間そのものだ」と言います。世の中はさらに無機質になり、人のつながりも希薄で、家族の間でさえいろいろなことが起きている身も凍るような現代に、私たちはまさに〝ふれあい〟と〝ぬくもり〟を求めているのかも知れません。

◇ＹＭＣＡが提供しているプログラム・機会・場所は多くの人の〝ふれあい〟を作り出します。隣人の役に立つ体験は、さらに人とのつながりと愛を確かめることを可能にします。いつも私たちのそばにいるのは神様です。神様との縦の関係と隣人との横の関係で人生が成り立っていきます。人はみな一人では生きて行けないのです。

総主事　廣田光司

＝公　示＝
第７回会員大会
日時：2009年５月23日（土）
13：30～17：00
場所：東京ＹＭＣＡ
東陽町センター
■お問合せ：会員部
ＴＥＬ　03―3615―5568

赤▽三角

関西や新潟の地震で被災された方々の教訓もあり、また特に、最近ではインフルエンザが大流行すると、すべてが止まってしまうという警告もあるので、水や食料の備蓄に関心が高まってきている。▼勿論、行政レベルでの準備は万端遺漏なきよう進められていると期待しているが、個人の備蓄をどのようにするか、つまり何をどの程度買っておいたら良いか、誰しも迷うところである。私もとりあえず、水や玄米（自宅用精米機あり）そして多少の缶詰などの備蓄を始めた。▼40年程昔になるが、当時オランダに駐在していた時、隣のオランダ人の奥さんが、地下室に食料の備蓄をしていて、それを見せてもらったことがある。既に戦後20年以上経っていたが、ドイツ軍に占領されて食料が手に入らなかった時代の教訓で、未だに1ヵ月分の食料を〝後入れ先出し〟方式で貯めているとのことであった。▼地下室のない私はとり合えず、大型冷蔵庫に2週間分程度をめどに貯蔵することを計画している。何時どのような事態が今後起きるのか想定できないので、或いはこれも気休めに過ぎないのかも知れない。しかし、どんな事態に遭遇してもこれで大丈夫と言える「万全の備え」でなくとも、〝Something is better than nothing〟と信じて備蓄し、後はお祈りをしているのみである。

（本会理事長　茅野徹郎）

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。